

活動記録書

開催日： 平成 29 年 9 月 7 日（木）曇	開催テーマ： 建築と文学
開催場所： 長谷	記入者： 金久保 常二
参加人数：	
寺社を巡る会会員	男 26 名 女 6 名 計 32 名
ビジター	男 1 名 女 名 計 1 名
合計	33 名
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）	
<p>コース：江ノ電 長谷駅⇒光則寺（本堂拝観・法話拝聴）⇒旧山本邸（説明拝聴・見学・昼食）⇒甘縄神明社⇒鎌倉文学館（館内見学後解散）</p> <p>まず光則寺を訪ねる。日蓮宗・開基は宿屋光則、開山は日朗上人である。さまざまな迫害を受けた日蓮が佐渡流罪の折、ともに捕らえられた日朗の身を案ずる日蓮に心打たれた光則は、のちに帰依し、自邸を寺にしたという。深い傾斜の屋根をもった本堂は江戸時代の慶安 3 年（1650）に建築と伝えられ、修理を加えて今日まで続いている。通常は非公開であるが特別拝観する。天井の装飾として描かれた鎌倉彫の絵画 136 枚には当寺の花や孔雀等天井絵が飾られている。境内は鎌倉有数の花の寺である。本堂の右前には樹齢約 200 年といわれるカイドウの古木で知られる。</p> <p>次に旧山本邸を訪問する。大正 7 年（1918）建築。大正 12 年の関東大震災にも健在だった数寄屋造りの邸宅は超一級の文化財として、平成 28 年国登録有形文化財に指定された。母屋、茶室、窓格子、屋根と誰にも荒らされず、ここまで丁寧に保存されていた。鎌倉の別荘文化を象徴する旧山本邸は後世に残していかななくてはならない鎌倉の宝のような気がする。大広間から庭園を眺め、さらにその先は由比ガ浜を一望できる。こんな場所があったとは鎌倉でも数少ない眺望である。</p> <p>昼食後に、甘縄神明社を訪れる。祭神は天照大神。奈良時代の和銅年間（708～715）に豪族の染谷時忠が建立した鎌倉で一番古い神社といわれており、長谷の鎮守となっている。源頼義が当社に祈願して義家を授かったことから源氏と関係の深い神社として、また子宝のご利益がある神社として知られている。拝殿の屋根は青銅色で美しく「かつお木」が 5 本あり、左右端には「干木」という交差して空に突き出た木がついている。境内にある大きなタブの木は鎌倉と三浦半島古木・名木 50 選に指定されている。</p> <p>最後に訪れたのは鎌倉文学館。文学館の門を入ると招鶴洞という西欧式洞門がある。門から玄関までの道には、照明筒（外灯）があり、どれにも作家の歌や俳句が記されていた。丘の上に建つ青い屋根の洋館の建物は、昭和 11 年旧前田侯爵家の別邸として建設された。その後昭和 58 年鎌倉市が寄与を受け、昭和 60 年から鎌倉文学館として使用している。本館の常設展示では、鎌倉ゆかりの文豪の著書、原稿、愛用品などを保管、展示されている。赤ペンや手直しが見られ懐かしかった。鎌倉文学館のもう一つの魅力は美しい庭園でした。庭園にはバラ園もあり、世界中のバラが植えられている。しかしながら時期的に早い。開花の少ない中で一例を挙げると「プリンセスアイコ」「静の舞」「荒城の月」「ふれ太鼓」などの品種が可憐な花を咲かせていた。</p>	
参加者の状況・意見など：	
<p>本日の探訪は何とんでも、光則寺、旧山本邸、鎌倉文学館の内部拝観が出来た事、さらに丁寧なお話を拝聴出来た事である。</p>	
次回の予定：	
10 月 5 日（木）10：00 鎌倉駅東口 日蓮と法華経	